県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.79
2017年
6.7月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000(代表)　ＴＥＬ：079-497-7011(地域医療連携部直通)　ＦＡＸ：079-438-3756(地域医療連携部直通)

もくじ

- 入院サポートセンターのご紹介 …… 1
- 循環器内科 …… 2
- 泌尿器科 …… 3
- 整形外科 …… 4
- 東播磨骨粗鬆症地域ネットワークについて …… 5
- 放射線科 …… 6
- 検査部トピックス …… 7
- 外来診療表 …… 8

入院サポートセンターのご紹介

県立加古川医療センターでは、①安全な医療の提供　②患者サービスの向上　③業務の効率化を目的に、平成 29 年 4 月より入院サポートセンターを開設いたしました。

入院サポートセンターでは、専任のスタッフ（看護師 1 名、医療クラーク 2 名）が、手術などで治療の入院が決定した患者様へ、術前の検査の日程調整や説明、入院中の治療･看護のスケジュール（クリニカルパス）、常用薬の確認や治療に関わる中止薬の説明など、そして何より入院・治療に関わる不安や心配事などに細やかに対応いたします。また、入院前に患者様の情報を収集することにより看護上の問題の抽出やその問題への支援、そして、病棟への継続看護を行なっております。

これらのことを、入院サポートセンターで集中して実施することで、手術・治療の安全性の向上を図り、効率的で質の高い医療・看護を提供することができます。また、落ち着いた環境で説明することにより患者様の不安を軽減し、事前に入院から退院までの流れを知っていただくことで適切な入退院支援を行うことができます。

平成 29 年 5 月現在では、消化器外科、消化器内科の一部の患者様が対象ですが、順次他の診療科の患者様へも支援を拡げていく予定です。

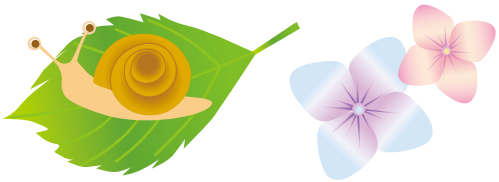
当センターへ入院される患者様が安心して、より安全な医療・看護を受けられるよう、活動を行なってまいります。

循環器内科

循環器内科部長　**岩田幸代**

循環器内科はこの４月から前任の奥田部長の後、私、岩田幸代が部長として赴任し、福田亨医師、片嶋隆医師、片岡俊哉医師の非常に優しく優秀な男性３人に囲まれ、それぞれの得意分野を活かしつつ絶妙なチームワークを発揮しながら診療にあたっております。研修医の教育や指導、睡眠時無呼吸症候群、禁煙指導、脂質異常や高血圧などの生活習慣病管理、画像診断、虚血性心疾患、心不全など多岐にわたり診察しておりますが、これからは、更に肺高血圧や意識消失症例などにも積極的にかかわっていこうと考えております。循環器疾患ならすべてをマネジメントできるように研鑽中です。まだまだ、これからも、地域の先生方にも教えを乞いながら成長していければと思っております。

循環器疾患は疾患発症の急性期から予防を含めた慢性期まで、どの段階が抜けても予後を悪くしてしまいます。私たちは微力ながら、そのすべての段階に介入し、患者様が主体となって疾患を理解し共に治療していけるように力添えをさせていただこうと考えております。また、最近では患者様の高齢化やリウマチ診療や透析診療の開始もあり、循環器疾患を併存した患者様も多く入院されております。そのような患者様が安心して治療が受けられるように院内でも協力体制をとっておりますので、これからも今まで以上にご紹介いただければと思います。４名という少ないスタッフのため、どの医師にご紹介いただいても情報共有体制はできておりますのでご安心ください。得意分野に関係なく外来はご紹介いただければ対応いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



腹圧性尿失禁に対する尿道スリング手術の成績

泌尿器科部長　田中宏和

◆ はじめに

腹圧性尿失禁は女性の尿失禁の６割を占め、腹圧性尿失禁に切迫性尿失禁を併せ持つ混合性尿失禁を合わせると９割近くになります。成人女性の３人に１人は尿失禁があるとされており、腹圧性尿失禁に人知れず悩んでおられる女性はかなり多いと思われます。腹圧性尿失禁は出産や肥満や加齢のために尿道をささえている骨盤の筋肉の働きが低下することが原因で生じます。薬物療法は効果的なものはなく、骨盤底筋体操などの運動療法が効果的とされていますが、効果が得られるまでには時間がかかり持続して行うのは難しいようです。そこで近年では局所麻酔で行え、比較的簡単でかつ効果が高い尿道スリング手術が行われています。当院では現在までに 30 例の患者様に行い、良好な成績が得られていますので、ご紹介させていただきます。

◆ 手術方法

尿道スリング手術はメッシュの両面テープをお腹の皮膚から尿道の裏に通して尿道を支える手術です。テープを恥骨に沿わせて恥骨上縁の皮膚に出す TVT 手術（図 1）と、閉鎖孔から恥骨の外縁に出す TOT 手術（図 2）があります。麻酔は局所麻酔と静脈あるいはガス麻酔と併用して行い、手術時間は約 50 分です。

図 1

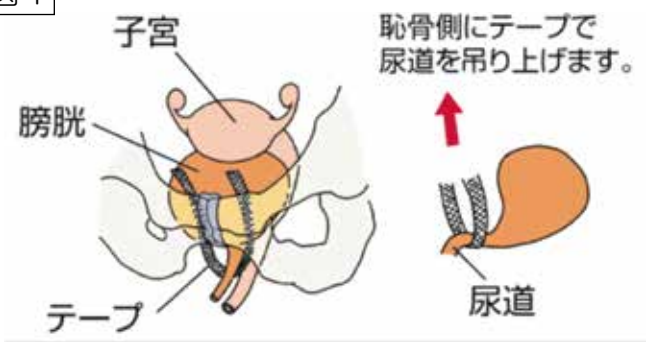
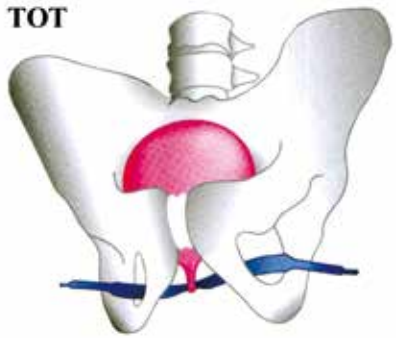


図 2



◆ 手術実績

現在までに 30 例経験しています。TVT 手術が 29 例、TOT 手術が 1 例です。当院では原則 TVT 手術を選択しており、腹部手術の既往などで、恥骨の裏に腸管が癒着している可能性がある場合には TOT 手術を施行します。30 例中 24 例（80%）で尿失禁は完全に消失し、4 例（13%）で改善、2 例（7%）が不変でした。最長観察期間 3 年ですが再発は認めておりません。また、幸い大きな合併症は認めておりません。入院期間は日帰り手術も可能と言われていますが、当科では患者様の希望もあり 5 日ぐらいです。

◆ おわりに

腹圧性尿失禁は、中高年の女性にとっては、決してめずらしい疾患ではありません。ただ、恥ずかしいという気持ちやあきらめなどから医療機関を受診される方は非常に少ないと考えています。TVT 手術は低侵襲でありかつ治療効果も高く、もっと普及してもいい手術であると考えます。普及を妨げているのは他ならぬわれわれ泌尿器科医にあると思っております。兵庫県下では TVT 手術を行っている医療機関は極めて少なく、手術の恩恵にあずかれない患者様が数多くおられると思います。当科ではこれからも積極的に同手術を行っていく所存ですので、もしお困りの患者様がおられましたらご紹介いただきましたら幸いに存じます。

整　形　外　科

整形外科部長　**高山博行**

当科は、旧県立加古川病院時代から東播磨圏域における中核診療科として近隣医療機関、住民の皆さまからも確たる信頼を得てきました。2009 年の新築移転後は、最新医療機器の整備だけでなく、各診療科医療スタッフもさらに増員拡充され、重症 3 次救急にも対応可能な救命救急センターとして県内でも広く認知されてきております。整形外科分野では、多発外傷や脊椎脊髄損傷に緊急で対応できる施設は数少ないこともあり、県全域遠方からの搬送も多くあります。整形外科手術件数はさらに増加し、昨年度は年間 1400 件を超え、緊急手術も 200 件以上ありました。

■ 重症 3 次救急

多発外傷や骨盤骨折では、合併臓器損傷により生命が危険な場合も多く、整形外科単独でなく、救急科をはじめとする多くの科と連携、協力しながら ICU で集中的に全身管理して治療にあたっております。脊椎損傷では緊急で脊椎固定術を施行しますが、スクリュー固定に際してはナビゲーションシステムを導入しています。ナビゲーションの利点としては正確性だけでなく、リアルタイムモニタを見ながらスクリューを挿入できるため緊急手術にも即時対応できる利便性も挙げられます。

■ 慢性疾患、2 次救急

一方、重症救急症例以外の慢性疾患ももちろん数多く扱っております。以前より外来の初診紹介率は高く安定していますが、慢性疾患以外にも、ここ 2,3 年は 2 次救急外傷も積極的に受け入れを拡大しております。昨年の 2 次救急外傷の手術件数は 516 件となり、平成 25 年度以前 (300 ～ 350 件 / 年) より飛躍的に増加しております。

■ 骨粗鬆症

また、高齢化社会の到来により骨粗鬆症患者が急増しており、骨粗鬆症の治療にも力を入れております。当院での骨粗鬆症外来（月､水曜日）だけでなく､別頁でご紹介する「東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク」などを通して、生活指導、受診案内も含めた包括的な治療を地域全体で充実させることを目指しております。

当院は急性期 DPC 病院であり、入院に関しては手術症例が優先となることはご了解ください。また術後も早期に回復期病床への転院をお願いしております。外来通院も、症状が安定化すれば開業の先生方にフォローなどをお願いすることもございますが、なにとぞご理解、ご協力お願い申し上げます。

東播磨骨粗鬆症 地域連携ネットワークについて

超高齢化社会に伴い、骨粗鬆症患者が急増しています。骨粗鬆症による骨折は、再骨折を起こしやすいことが明らかになっていますが、その治療率はわずか 20%程度と言われており、今後ますます骨折患者が増加することが懸念されます。

東播磨地域において、大腿骨近位部骨折地域連携パスを使用する連携機関を中心に、医師会、健康福祉事務所にも協働していただき、平成 28 年 5 月に骨粗鬆症地域連携ネットワークが立ち上げられました。年 3 回の会議を基本として、骨粗鬆症に関するデータの収集・分析や、骨粗鬆症治療の継続に向けた取り組みを行っていくことを予定にしております。

現在、62 施設が参加しており、平成 29 年 3 月には、藍野大学健康保健学部特任教授：揚鴻生先生に「地域連携における骨粗鬆症治療」をテーマにご講演いただきました。骨粗鬆症の健康寿命に及ぼす影響や、治療継続の重要性、具体的な関わり方などを分かりやすくお話しいただき、連携機関全体で、目指す方向の共有ができました。

骨粗鬆症治療の開始や継続は、病院や整形外科だけでなく、内科系の開業医の先生方との連携も非常に重要と考えております。今後も、研修会等の企画を予定しておりますので、是非ご参加頂けますようお願いいたします。

当院にも骨粗鬆症マネジャーが誕生しました。

骨粗鬆症の治療率や治療継続率の向上のためには「一人の患者様の治療経過を通して地域の医師・看護師・薬剤師等のメディカルスタッフがチームとして連携を取りつつ関わっていくこと」が重要とされています。このようなリエゾンサービス提供者を「骨粗鬆症マネジャー」と呼称し、日本骨粗鬆症学会が育成や認定を図っています。

当院では平成 29 年 3 月に前地域医療連携部課長で、現在は整形外科混合病棟看護師長の谷口が認定を受けました。東播磨地域でも、複数の施設で骨粗鬆症マネジャーが誕生しており、連携しながら、院内でできること、院外と協働できることを、1 つずつ実践していき、少しでも「骨折の予防」につなげたいと思っております。

放　射　線　科

スタッフ

常勤医

小川　恭弘	（放射線治療専門医）	院長
酒井　英郎	（放射線治療専門医）	部長
伊崎　健太	（放射線診断専門医）	部長
西岡　瑛子	（放射線診断専門医）	医長

非常勤医

久島　健之	（放射線治療専門医）	
佐々木　良平	（放射線治療専門医）	
石原　武明	（放射線治療専門医）	
吉川　武	（放射線診断専門医）	
橋村　隼人		専攻医

当科は現在、放射線診断常勤医２名と放射線治療常勤医２名、非常勤の放射線診断医１名、非常勤放射線治療医３名、非常勤専攻医１名で放射線診療業務全般に取り組んでおります。

放射線診断では、80 列マルチスライス CT や 1.5 テスラ MRI、３テスラ MRI、核医学での SPECT 装置など最新の放射線機器が導入されております。

IVR（Interventional Radiology：放射線機器を用いた低侵襲治療）に関しては、肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法では、従来の TACE を始めとして、薬剤溶出性ビーズによる最新の治療法も実施しております。そして門脈圧亢進症に対するカテーテル治療、化学療法や在宅療養のための CV ポート造設術も行っております。また下肢閉塞性動脈硬化症や透析シャント不全に対する経皮的血管形成術・ステント留置術や IVR-CT を使用した膿瘍などのドレナージ、腫瘍生検なども行っております。さらに救急救命センターと連携して外傷性出血に対する緊急の止血術にも、24 時間体制で対応しております。このように IVR 手技全般に幅広く対応しており、昨年度の IVR 件数は 327 例となりました。

核医学部門においては、骨シンチなどの通常検査に加えて、最近は高齢者に対する脳血流シンチやダットスキャンなどの頭部検査は 186 例などと検査件数が急激に増加してきており、核医学全体では 1007 件でした。

放射線治療に関しても、姑息的照射だけではなく根治的放射線治療にも意欲的に取り組んでおり、県立粒子線医療センターや神戸低浸襲がん医療センターとも緊密に連携しております。乳腺外科や泌尿器科、脳神経外科など院内診療科からの依頼にとどまらず県立がんセンターなどの近隣の中核医療機関や医師会の先生方からも多数のご紹介をいただいております。このため昨年度の放射線治療患者数は 287 例と年々増加しております。以上のような外照射だけではなく、骨転移に対する Sr-89 の放射線内用療法も行っております。今年度は去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対する Ra-223 による放射線内用療法の開始いたしました。常勤の放射線治療医も２名体制で、放射線科が直接治療ベッドを管理しており、入院での放射線治療も柔軟に対応できるようになりました。必要に応じて、緩和ケア対応も行っております。昨年度は放射線治療器が最新鋭器リニアック装置に更新され、強度変調放射線治療（IMRT）などの先進的な治療にも対応するべく準備を進めております。

地域医療機関の先生方へ

院外からの画像診断や IVR 全般だけではなく、疼痛などの症状緩和を含めた入院による放射線治療についても地域医療連携部を介して月～金で毎日対応しております。受診に至らないような相談的な内容でも、いつでもお気軽にお電話などでご連絡ください。

放射線治療を始めとして、下肢の閉塞性動脈硬化症や透析シャント不全に対する血管形成術、肝癌に対する動脈化学塞栓療法なども入院対応しておりますので、直接ご紹介頂ければ幸いです。

検査部トピックス

細菌検査室が新しくなりました !!

臨床検査は病気の診断や治療方針の決定・治療効果の評価に有用です。検査部では 32 名の臨床検査技師が検体検査や生理検査など、さまざまな検査を実施しております。当センターでは平成 28 年に南棟を新設し、それに伴い**細菌検査室が南棟２階に移転**いたしました。今回は細菌検査室をご紹介します。

【新しい細菌検査室の特色】

わが国の臨床細菌検査室は主に細菌を扱っており P2 レベルの検査室が多い中、当センターでは＊P2 に加え、**高レベルの P3 細菌検査室を整備**しました。日常検出されるヒト型結核菌（Mycobacterium tuberculosis）は感染症法で 2 類感染症に指定されております。また今後日本で致死率の高い輸入感染症が増加することを考えると、P3 細菌検査室の整備は非常に重要です。

＊ P：物理的封じ込め（physical conteinment）といい、封じ込めのレベルを頭文字 (P) で表示します

1 類 2 類感染症に対応する検査室
外部環境の安全を保障するため、
検査室内は陰圧に設定し、密閉窓や
エアロック扉を採用しております。

検査は、バイオハザード対策用
キャビネット内で実施しております。

【細菌検査室の業務】

細菌検査はさまざまな材料を対象に感染起炎菌の検出や薬剤感受性検査を行っています。インフルエンザ･レジオネラ菌･肺炎球菌をはじめ、**デング熱･マラリア等の迅速検査**も行っており、海外渡航歴のある患者様に発熱などの症状がある場合の迅速な診断・治療に貢献しております。

県立加古川医療センター外来診療表

平成 29 年 6 月 1 日（木）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		山内	大北	中村	志智／伊藤	中村
呼吸器内科	1 診		尾野			中田	安田
消化器内科	1 診		垰本(さかもと)	尹(ゆん)	廣畑(午前)	尹(ゆん)	垰本(さかもと)
	2 診		廣畑	松浦	担当医	廣畑	戎谷(えびすたに)
	3 診					白川	松浦
循環器内科	1 診		福田(午前)	竹本(午前)	岩田	福田(午後)	岩田
	2 診				片嶋		片岡
神経内科	1 診		木村	的場	的場	渡部(午後)	木村
糖尿病・内分泌内科	1 診		飯田	日野	飯田	大原	日野
	2 診			山内		志智／伊藤	
緩和ケア内科	入棟面談		山口		山口		山口
生活習慣病			尹(ゆん) (肝炎)	戎谷(えびすたに) (糖尿・肥満)	志智 (糖尿・肥満)	大西 (糖尿・肥満)	
			福田(禁煙) 午後	装具外来 (隔週:毎月第2、4火午前)			
リウマチ科	1 診		田中	田中	田中	田中	担当医1
	2 診		塩澤	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3 診		村田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4 診		中川	上藤	村田	村田	中川
腎臓内科	1 診	午前	加藤				
		午後		中尾		加藤(1,3,5週) 北浦(2,4週)	
外科	1 診		高瀬	衣笠	小林		高瀬
	2 診		堀川	川嶋	門馬(もんま)		堀
心臓血管外科	1 診			西脇			西脇(午後)
脳神経外科	1 診		初診担当医	相原	森下	初診担当医	相原
	2 診			担当医	担当医		長嶋
乳腺外科	1 診		佐古田	石川		佐古田	担当医
	2 診		小林	交代制(午前)		石川	
	3 診					土屋	
整形外科	初診 1 診		原田	中川	高山	青木	中川
	初診 2 診		岸本		市村	西原	
	再診 1 診		青木	上藤(午前)	原田	高山	担当医(午前)
	骨粗鬆症	午後	岸本		市村		
形成外科	1 診		櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2 診		桒水流(くわずる)		桒水流(くわずる)	桒水流(くわずる)	桒水流(くわずる)
	3 診		三谷		三谷	三谷	三谷
皮膚科	初診／予診		大塚	大塚	高井	大塚	山野
	1 診	午前 午後	白井 足立(アレルギー)	足立	足立	井上	足立
	2 診	午前 午後	山野 井上(アレルギー)	井上・白井隔週	井上	山野	白井
泌尿器科	1 診		大場	担当医	田中	担当医	田中
	2 診			大場			担当医
眼科 秋田（休診中）	1 診	午前 午後	薄木	薄木		薄木 コンタクト(隔週)	薄木
	2 診		徳川	徳川	徳川		
リハビリテーション科	1 診		柳田	柳田	西原	上藤	柳田
	スポーツ整形	午後	柳田		柳田		
放射線科	IVR		担当医		担当医		担当医
	治療初診		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	がん治療相談外来	午前		小川		小川	

●各科診療予定表は、変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。

お願い **患者様の待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。**